

広報 第六号

さくら前線

『痛み』について

さくらライフ市川クリニック

院長 林 高太郎

日々の診療の中で、患者様からの訴えで多いのは『寝れない』、『便が出ない』、『食欲がない』などですが、その中でも特に多いのが『痛み』です。頭の方から足の先まであらゆる場所の痛みの訴えがあります。

ただ、この『痛み』というのは主観的な概念で、感じている本人以外には同じように感じることも、理解もできません。また、血圧や脈拍のように測定して数字で表すこともできず、レントゲンやエコーなどの画像検査などで評価もできません。そのため、『痛み』のある部位の診察のほかに、その性状を詳しく質問します。例えば『朝起きると頭が痛い』、『空腹時におなかが痛い』、『長く歩くと腰が痛い』、『走ると膝が痛い』などです。

また、『痛み』の強さを評価するために、『チクチク』、『シクシク』、『ズキズキ』など擬音で表現してもらったり、患者様の表情から予測したり、本人に十段階で表現してもらったりする方法などもありますが、いずれにしても客観的に評価することはできません。

さらに厄介なことに、痛みには精神的な痛みというものもあります。慢性的な痛みを訴える場合などに多いですが、物理的に痛みの原因がないにもかかわらず、『痛み』を感じることもあるのです。例えば日頃から腰椎椎間板ヘルニアなどで腰痛発作を繰り返している人に、中腰で重い荷物を持ち上げようとしている人の写真を見せると腰痛を感じるがあるのである。

実は骨折などの外傷だけでなく、感冒や胃腸炎などの多くの病気の初期の症状として『痛み』は非常に重要で、病院受診の良いきっかけになります。重い病気であるにもかかわらず『痛み』がない病気も少なくありません。例えば高血圧や糖尿病では痛みはないですし、ガンなどの悪性疾患ではある程度進行するまで『痛み』がないことが多いのです。



痛みの治療としては内服薬、坐薬、湿布や塗り薬などの外用薬だけでなく、局所麻酔薬などを用いたブロック注射も行っています。また、ガンの末期などで内服などが厳しい場合には、シールのような貼付薬、点滴などを用いて持続的に鎮痛薬を投与する方法などもあります。どのような薬を用いるかは、『痛み』の原因、場所、強さなどで異なります。

『痛み』について色々書いてきましたが、『痛み』を治すための一番の近道は、いかに自分の感じている『痛み』を上手に伝えるかにかかっているということなのです。

施設紹介

さくらライフ市川クリニックは「在宅緩和ケア充実診療所」の届け出を行っており、終末期の患者様にも対応しています。また、管理栄養士が在籍し食事や栄養に関するご相談もお受けしています。

内科・精神科・整形外科
・皮膚科と多様なニーズにお応えしながら患者様の在宅生活を支えています。

新規ご依頼についてはまず当院相談員までお問い合わせください。

